

館報
いりやま

平成 28 年 5 月 1 日 現在

世帯数	889 戸
男	1,011 人
女	1,078 人
総人口	2,089 人

地域支え合いシステムの構築に向けた取り組み

①なぜ今、地域支え合いシステムを創るのですか

国は高齢化社会が進んで医療費・介護保険給付費などの増大による財政圧迫に危機感を持っていきます。必要な医療・福祉・安心して暮らせる環境が維持できなくなり、私たちの生活が大変な事態に至ってしまうことが予想されるからです。これを防ぐため国は「地域」の繋がりを見直し、新たに地域住民で支え合うシステムを創り、「誰もが住み慣れた家で・地域で、安心して暮らし続けることができる地域社会」を創ることにしました。

②どのようにしてそのような地域を創るのですか

国はこの事業を推進するため、市町村に「地域包括ケアシステム」を創るよう法律を定めました。松本市は、35 地区ごとに町会長を中心に、行政・医療機関・介護施設など関係する団体等で「地域ケア

会議」を開催し、支え合いの地域づくりに向け、具体的な活動を進めることになりました。



③支え合う地域のイメージはどのようなものですか

ひと昔前の地域社会でしようか。家の周りに住んでいる人、とりわけ高齢者・障害者・子ども・病気の人などに気を配り、不都合な環境の改善に参加することを当たり前にしている、住みよい地域に再生することです。雪かき・ゴミ出し・買物や通院の送迎・散歩等へのサポート・家族への気遣いなど、困っている日常のことを、さりげなく助け合う関係づくりです。今の社会はこう

した、互いを思い合う繋がりに欠け、近所付き合いがギクシャクしていると言われていきます。

④入山辺地区のシステムづくりはどのように進めるのですか

入山辺地区では、地域ケアシステムの導入はまだ早いと言いう声もあります。なぜかと言いつと、入山辺は人々の絆がまだまだ強く、日常的に支え合いが出来ていると思われるからです。しかし、高齢化率は 42 パーセントを越え地域の活力は衰えて来ています。人口減少・交通対策・後継者不足など、高齢者の生活が次第に不便になって来ている現状です。そのようなことから、この入山辺でも「支え合う地域づくり」が急務となつていきます。

入山辺地区には 13 の町会があります。各町会は数常会等に区割りされ、さらに回覧板を回す「隣組」に細分化されています。この隣組と呼ばれる地区組織は、平均した 5 世帯くらいの範囲です。実はこの隣組こそが、昔ながらの地域の絆の原点です。入山辺では、この「隣組」を支え合いのベースとして、「地域支え合いシステム」を構築していきます。

(民生・児童委員協議会長 平林八郎)

路線バス廃止!

アルピコ交通から、路線バスの入山辺、中山、三才山の 3 線を 9 月末で廃止したいと、市に申し入れがありました。松本市は、廃止する場合に「地域主導型」の代替バス運行を住民側に提案する考えです。路線バスに替わる交通手段は、「市営バス(四賀・奈川)」「地域バス(四賀)」「コミュニティバス(西部)」「オンデマンド交通」などがあります。



御柱祭り始まる!

諏訪大社系の大和合神社・宮原神社では、御柱の「山出し」が行われました。2 月下旬から見立て、結納、伐採と作業を進め、宮原神社は 4 月 10 日、大和合神社は 4 月 29 日に山出しが行われ、御柱置き場に安置されました。大和合神社の二の御柱は「木落とし」が行われ、祭りの雰囲気盛り上げました。

来年 4 月に行われる、「建立祭」が楽しみです。



平成 28 年度 入山辺公民館主要事業

- ◎ 5 月 29 日(日) 町会対抗球技大会
 - ◎ 7 月 23 日(土) 第 29 回親子ひろば
 - ◎ 9 月 11 日(日) 第 33 回市長杯争奪球技大会 大会東山ブロック予選
 - ◎ 10 月 9 日(日) 第 59 回市民体育大会
 - ◎ 10 月 16 日(日) 第 89 回大運動会
 - ◎ 10 月 30 日(日) 第 40 回文化祭(町会対抗ゲートボール大会)
- ※その他各種講座や事業の開催については、随時発行の「入山辺公民館たより」等でお知らせいたします。

人事往来
新任のごあいさつ



入山辺地区
町会連合会長
柳澤 正

この度、大役を仰せつかりました。至りませんが任期を全うして参りたいと思いません。

営々と築かれてきた長い歴史と文化を持つ入山辺であります。各所の整備や行事に住民が額に汗し、努めてきた想いが込められております。地域社会が少子高齢化や過疎の状況下、当地域にも色々な課題が生じてきております。そんな中、「こんな山辺にするじゃん会」が地域づくりに取り組み諸活動を進めていきます。多くの方々の参加を期待しています。東北、栄村、松本、白馬村の記憶が薄れないうちに九州で大地震が連続して起き避難生活を続けられている状況です。地区として他山の石とせず白馬村の自助・共助の対応を教訓に減災、危険回避の対策を一層進めていく必要もあります。



入山辺保育園
米久保 恵子

この度の異動で、入山辺保育園でお世話になっていました。47人の園児と職員9人、そして8人の支援の方々との生活が始まって2ヶ月が経ちました。当初は「違う先生だ」と何うように見ていた年長児でしたが、元気に声をかけてくれるようになりました。また、小さな子どもたちも、お手伝いに入ると顔を覚えてくれるようになりました。

園児にとって安心・安全に過ごせる保育園であるよう努めると共に、豊かな実りや自然に恵まれていることに感謝し活かしながら、笑顔溢れる保育園づくりを進めていきます。お世話になりました。お話しになります。お話しになります。お話しになります。



入山辺地区
地域づくりセンター長
三澤 孝吉

4月1日付の人事異動により、入山辺地区地域づくりセンターにお世話になることになりました。三澤孝吉と申します。入山辺地区は、緑あふれる自然環境の中、住民一人ひとりが安心していきいきと暮らせるまちづくりを目指し、取り組まれている先進地とお

伺いしております。私も皆さんの目指す地域づくりを、町会や住民の皆さんと、想いをひとつにして一緒に取り組みさせていたいただきたいと思っておりますので、ご指導ご協力、よろしく願います。

退任にあたり

前入山辺地区町会連合会長

増澤 範一

二年間、連合町会長という大役を仰せつかり、地区の皆さまの温かいご支援とご協力により何とか勤めさせていただきました。

そんな中で痛切に感じたのは、少子高齢化が進み人口が年々減少していることです。そんな状況の中で、毎年、中学校卒業生と語る会を実施していますが、大学等で外へ出て行っても将来必ず入山辺に戻ってきたいとお話を大勢の皆さんからいただきました。嬉しい限りです。

どうか災害もなく平和で住み良い地域づくりが必要だと思います。一人でも多く入山辺に訪れたり、住んでもらえるよう、みんなで考え頑張ろうではありませんか。

終わりに入山辺地区の増々の発展を願い退任の挨拶いたします。二年間本当にありがとうございました。

平成28年度役員紹介

町会連合会長
防犯協長

人権推進協議会長
入山辺記念林協議会長
入山辺記念林委員
農振推進協議会長
松本市農業委員
防犯部会長
防災福祉女性部長
衛生協議会長
入山辺社会福祉協議会長
福祉ひろば事業推進協議会長
福祉ひろば

柳澤 正
大澤 徳次
大輪 健一
百瀬 房雄
百瀬 道雄
武井 勝巳
石川小夜子
市川 清
朝倉 啓雄
武井 茂善

専任コーディネーター
健康づくり推進員
入山辺公民館長
民生・児童委員協議会長
町内公民館長
子ども会育成会長
体育協長
交通安全協会支部長
消防第十八分団長
公民館編集委員
老政会長

小笠原玲子
百瀬 祐子
遠山 重治
八郎 八郎
三ツ山榮勇
柳澤 良子
高野 弘文
松崎 博美
西澤 幸雄
朝倉 康直
西澤 訓男
木下 理恵
木下 郁子
加藤 守

入山辺保育園保護委員
山辺小学校PTA副会長
山辺中学校PTA代表
橋倉 武井 茂善
小笠原鉄夫
桐原 俊幸
木下 補雄
舟付/宮原 百瀬 道雄

民生・児童委員
橋倉/南方
西桐原
東桐原
舟付/宮原
三反田/奈良尾
大和合/牛立
三城

小笠原玲子
百瀬 洋子
平林 八郎
西澤 博子
矢島 維豊
大輪 良子
朝倉 洋子
澤渡家寿江
前田 民江
向井 圭子

北入中部
丸山 則良
千手/駒越
加納 光敏
三反田/奈良尾
内城 登
上手町
朝倉 啓雄
原/既所
柳澤 正
大仏/一の海
柳澤 憲一
大和合/牛立
柳澤 謙二
三城
柳澤 秀勝

橋倉
南方
西桐原
東桐原
舟付/宮原

武井 秀樹
牧田 壽男
山内 誠
久保田豊美
百瀬千賀夫
三ツ山榮勇
赤澤 和美
大輪 邦彦
大澤 清志
朝倉 和久
宮坂 修
前田 純一